

見直そう 家庭ごみの排出量

限りある資源を有効に

大量生産、大量消費、大量廃棄の時代から「循環型社会の確立」への転換が地球規模で考えられるようになりました。

この背景には、限りある天然資源の有効活用、廃棄物から発生する大気汚染、生産のためのエネルギー消費などがあります。

しかし、一度物質的豊かさになった生活は、なかなかガアチエンジでできません。そのため私たちは、循環型社会を目指しつつ、大量消費時代の生活を日々過ごしているのではないのでしょうか。

例えば、ペットボトル。その携帯性、ファッション性、個性のあるラベルなどから瞬く間に、私たちの生活に広がりました。ちなみにその生産量は、平成8年に20万3千トンであったのが、平成13年の見込みは47万3千トン

(ペットボトル推進協議会調べ)にもなります。

こうしたごみ問題に、市は全国にさきがけ可燃ごみの有料指定袋制を導入するなど、先進的に取り組んできました。しかし、ごみは可燃ごみを中心に増え続けています。

この増え続けるごみにどう対処していくのかを検討するため、平成12年に「ごみ処理基本計画」をまとめました。

この基本計画書では、「平成22年の生活系・事業系の可燃ごみおよび不燃ごみ」一人1日当たりのごみ排出量目標を708グラムとしました。

私たち一人ひとりが、少しでもごみの減量に心がけ、地球に優しい環境づくりを心がけたいものです。

あなたは、「ごみ」についてどうお考えですか。

これから、いっしょに考えてみましょう。



今回、市民レポーターとしてご活躍いただいた坂本政子さん（右側）、野田しのぶさん（左側）。

